

市第23号議案

横浜みどり税条例の一部改正

横浜みどり税条例の一部を改正する条例を次のように定める。

平成30年9月11日提出

横浜市長 林 文子

横浜市条例（番号）

横浜みどり税条例の一部を改正する条例

横浜みどり税条例（平成20年12月横浜市条例第51号）の一部を次のように改正する。

第2条第2項中「平成30年度」を「平成35年度」に改める。

第3条第1項中「平成31年3月31日」を「平成36年3月31日」に改める。

第5条及び第6条中「平成30年12月31日」を「平成35年12月31日」に改める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

提 案 理 由

市民税の均等割の税率の特例並びに固定資産税及び都市計画税の特例を適用する期間を延長するため、横浜みどり税条例の一部を改正したいので提案する。

参 考

横浜みどり税条例（抜粋）

（上段 改正案
下段 現 行）

（個人の市民税の均等割の税率の特例）

第2条 （第1項省略）

- 2 平成26年度から平成35年度までの各年度分の個人の市民税の均等割の税率は、市税条例附則第9条の4の2の規定にかかわらず、同条に定める額に900円を加算した額とする。この場合における市税条例第26条及び第33条の4第1項の規定の適用については、市税条例第26条中「前条」とあり、市税条例第33条の4第1項中「第25条」とあるのは、「横浜みどり税条例第2条第2項」とする。

（法人の市民税の均等割の税率の特例）

- 第3条 平成21年4月1日から平成36年3月31日までの間に開始する各事業年度若しくは各連結事業年度又は各地方税法（昭和25年法律第226号）第312条第3項第4号に規定する期間（次項において「期間」という。）に係る法人の市民税の均等割の税率は、市税条例第26条の2第1項の規定にかかわらず、同項の表の左欄に掲げる法人の区分に応じ、それぞれ当該右欄に掲げる額に、当該額に100分の9を乗じて得た額を加算した額とする。この場合における同条第2項の規定の適用については、同項中「前項」とあるのは、「横浜みどり税条例第3条第1項」とする。

（第2項省略）

（特定緑化部分に対して課する固定資産税等の特例）

- 第5条 次に掲げるそれぞれの割合に相当する緑化を行った部分（

以下「基準緑化部分」という。)に加えて更に当該割合に5パーセントを加算した割合以上の緑化を行った場合における当該基準緑化部分を超えて緑化を行った部分(以下「特定緑化部分」という。)を有する建築物の敷地の用に供されている土地(面積が500平方メートル未満のものを除く。)について現に当該特定緑化部分が存するものと市長が認定し、かつ、当該土地に存する基準緑化部分及び特定緑化部分(以下「緑化部分」と総称する。)に係る建築物の所有者又は管理者が当該緑化部分について10年間保全する契約を平成21年4月1日から平成35年12月31日までの間に締結した場合には、当該土地に対して課する固定資産税又は都市計画税については、当該契約を締結した日の属する年の翌年の1月1日を賦課期日とする年度から10年度分の固定資産税又は都市計画税に限り、当該土地に係る固定資産税額又は都市計画税額のうち当該特定緑化部分が当該土地に占める割合に相当するそれぞれの額のそれぞれ4分の1に相当する額を当該土地に係る固定資産税額又は都市計画税額から減額する。

(第1号から第5号まで省略)

(農業用施設用地に対して課する固定資産税等の特例)

第6条 農業振興地域の整備に関する法律(昭和44年法律第58号)

第3条第3号又は第4号に規定する施設(以下「農業用施設」という。)の用に供する土地(固定資産評価基準(昭和38年自治省告示第158号)第1章第3節四本文の定める方法により評価されるものを除く。)の所有者が当該土地上に存する当該農業用施設について10年間保全する契約を平成21年4月1日から平成35年12月31日までの間に締結し、かつ、市長があらかじめ定める基準に

より都市部における緑地としての農地の保全に寄与することとなる農業用施設の用に供する土地として当該土地が指定された場合には、当該土地に対して課する固定資産税又は都市計画税については、当該指定の日の属する年の翌年の1月1日を賦課期日とする年度から10年度分の固定資産税又は都市計画税に限り、第1号に掲げる固定資産税額又は都市計画税額から第2号に掲げる固定資産税額又は都市計画税額に相当する額を減じて得たそれぞれの額に相当する額を当該土地に係る固定資産税額又は都市計画税額から減額するものとする。

(第1号及び第2号省略)